

環境と両立する経済社会

——SPEEDセミナーより

③

今回は山本先生から、自己調整力を持つことを意味するゲームズ・ラブロックのしている。

『ガイアの復讐』(The Revenge of Gaia)について、しかし、システムとして、温暖化が悪循環に陥り加速度的にどんどん状況が悪くなるポジティブ・フィードバック・ループに既にたくもんだめだと、人類はほとんど生き残らないということを、結論として言っている。

彼が提唱する「ガイア理論」のガイアとは、生きていく地球とも言われ、いろいろな変化が起きてても温度や化学組成を一定に保つ自

また、今からでは持続可能な開発などあり得ない。再生可能エネルギーについてもロマンチックな夢に過ぎないと切り捨てている。

地球温暖化編 ③

えだひろ じゅんこ
枝廣 淳子氏

ジャパン・フォー・サステナビリティ 共同代表



持続可能な“退却”が必要

彼は、地表をこれ以上人間のために使うな、ガイアの自己調整力のために取っておきなさいと主張している。

必要なのは「持続可能な退却」(Sustainable Retreat)だと強調している。話はラブロックから反れるが、私が参加したワシントンでの

ある会議で、この持続可能な退却に近い戦略を取り始めている企業として、日本の向山塗料(山梨県甲府市)や伊那食品工業(長野県伊那市)の事例を紹介したが、やはりアメリカの人達には、成長を抑える経営戦略が、成長を分かってもらえなかった。

しかし、いずれ分かってもらわないといけないだろう。結局、最初に売り上げを下げていくしかない。その後利益をいろいろな形に変えるにしても、今のような経営は今後あり得ないのだから。

あと、この本では、何が原因でこうなってしまったか遅れたと述べて終わっている。

この『ガイアの復讐』について、レスター・ブラウンやほかの関係者に感想を聞いたところ、あの本は出さなければならなかった、ラブロックが悲観的なのは構わないが、それを皆に言う必要はないだろうと、いろいろの人が言っていた。事実、様々な議論を呼んでいる。先ほど紹介したフィード

バック・ループは、いったんスイッチが逆に入れば、今後は加速度的にどんどん状況は良くなる。温暖化の悪循環をどめるとは、そういう好循環をどうやって重ねていくかだと思う。地域における各企業やNGOなどの取り組みをもっと全面展開し、大きなうねりにして行く必要がある。

これから絶望的な事象が多々出てくると思うが、日本からは前向きな情報が届くよう、私は「希望の泉」大勢のボランティアに支えられながら、毎月、日本の進んだ取り組み、新しい取り組みの情報を送り出している(http://www.japan-fs.org/index_j.html)。